

陸軍航空の草創期を本格的かつ系統的に 明らかにした実証研究

陸軍航空の形成

軍事組織と新技術の受容

松原 治吉郎 [著]

陸軍航空の形成期を鮮やかに浮かび上がらせている。近代日本の軍事史に対する重要な貢献であるとともに、防衛力のあり方を考える上で示唆に富む一冊だ。

——北岡伸一（東京大学名誉教授）

第一次世界大戦後、兵器や戦術が急速に近代化する中で、帝国陸軍はただ拱手傍観していただけだったのだろうか？ 著者の主張は否である。

帝国陸軍は、飛行機が将来の戦争においてゲームチェンジャーになると明確に認識していた。——
将来の戦争形態が抜本的に変化した——この危機感により、陸軍は大戦の教訓を貪欲に吸収するとともに、国際政治の潮流も利用しつつ、日本の国情にあった防衛力としての航空戦力の整備に努めた。

本書では、海軍航空に比してあまり知られることのない陸軍航空の建設過程を、欧米諸国との比較も織り交ぜながら明らかにする。また、それを通じ、新たな軍事的手段が登場した際の軍事組織の対応と、防衛力のあり方に関する理解を深めることも目的とする。

今日のインプリケーションも多く含む、近代日本の軍事史研究に必読の書。



陸軍航空の形成

軍事組織と新技術の受容

松原 治吉郎 著

錦正社

定価 5,940 円 (10%税込)

[本体 5,400 円]

2023年3月発行、432頁

A5判・上製・カバー装

ISBN978-4-7646-0355-4

(ご注文・お問い合わせ)

錦正社 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 544-6

電話 03(5261)2891 FAX03(5261)2892 URL <https://kinseisha.jp/>



陸軍航空の形成——軍事組織と新技術の受容——

定価：5,940 円 (税込) [本体：5,400 円] ISBN978-4-7646-0355-4

書店様番線

注文数

冊

お名前

〒

ご住所

お電話

注文書

目次

はじめに

序章

- 第一節 研究の目的と意義
- 第二節 先行研究の整理
- 第三節 研究方法と史料の扱い
- 第四節 本書の構成

第一章 初期陸軍航空の実情と課題

本章の概要

- 第一節 第一次世界大戦以前の世界の航空界
- 第二節 初期の陸軍航空組織
 - 一 臨時軍用気球研究会の発足
 - 二 陸軍航空組織の課題

第三節 初期の陸軍航空要員の補充・養成

- 一 航空要員の補充・養成方法
- 二 航空要員の補充・養成上の課題

第四節 初期の陸軍航空器材の補給・整備

- 一 航空器材の補給・整備の方法
 - 二 航空器材の補給・整備上の課題
- 本章のまとめ

第二章 第一次世界大戦、シベリア出兵と陸軍航空

本章の概要

- 第一節 第一次世界大戦における航空戦力
- 第二節 第一次世界大戦と陸軍航空
 - 一 青島戦役における陸軍航空隊の活動
 - 二 青島戦役における戦訓
 - 三 航空器材の輸入停止と航空器材国産化の試み

第三節 シベリア出兵と陸軍航空

- 一 航空部隊の大拡張計画と飛行機の大量購入
- 二 シベリア出兵における陸軍航空隊の活動
- 三 シベリア出兵における戦訓と課題

第四節 諸外国における航空戦力の実態調査

- 一 大戦中の欧米航空戦力に対する陸軍の関心
- 二 陸軍による航空事業の推進と独立管理
- 三 航空要員の補充・養成
- 四 航空器材の補給・整備

五 民間航空の活用

第三章 陸軍航空発展の契機

本章の概要

- 第一節 大正六年特別大演習と航空関係組織の改編
 - 一 大正六年特別大演習における飛行機事故
 - 二 陸軍航空関係組織の改善案
- 第二節 航空先進国からの影響（一）イタリア
 - 一 イタリアへの日本航空団派遣の経緯
 - 二 イタリアにおける日本航空団の教育内容
 - 三 イタリア派遣日本航空団の評価

第三節 航空先進国からの影響（二）フランス

- 一 フランス航空教育団来日の経緯
 - 二 フランス航空教育団による教育内容
 - 三 フランス航空教育団の講習への評価
- 本章のまとめ

第四章 陸軍航空の近代化

本章の概要

- 第一節 陸軍航空の近代化の始まり
 - 一 陸軍航空部隊の拡大と編制分科の始まり
 - 二 陸軍航空部の新設とフランス式の採用
 - 三 陸軍航空部新設の評価とその後の課題
- 第二節 陸軍航空要員の補充と養成方針の変化
 - 一 「航空術修業員分遣規則」の制定
 - 二 陸軍航空学校の新設と航空教育の専門化
 - 三 教範類の作成と航空運用思想の形成

第三節 陸軍航空器材の生産及び補給方針の変化

- 一 フランス式航空器材の採用
 - 二 器材独立方針
 - 三 整備方法の模索
 - 四 航空器材整備の課題
- 本章のまとめ

第五章 陸軍航空の独立と外部資源活用の模索

本章の概要

- 第一節 陸軍航空における航空の独立管理への模索

一 宇垣軍縮と陸軍航空本部の発足

- 二 航空兵科独立
- 三 陸軍航空関係行政組織の改編の功罪

第二節 民間航空基盤の育成

- 一 世界の民間飛行界の状況
- 二 日本の民間航空界の状況
- 三 航空局設置と民間航空活用の模索
- 四 民間航空活用上の問題

第三節 海軍航空基盤の活用

- 一 海軍の飛行機に対する関心と陸軍からの評価
 - 二 陸軍による独立空軍創設の模索と海軍の反発
 - 三 「現制維持」の結論とその要因
- 本章のまとめ

終章 帝国陸軍の航空建設期における課題と対応の分析

第一節 各章の整理

第二節 井上幾太郎の改善案とその達成度合

第三節 第一次世界大戦の教訓から陸軍航空が目指したもの

第四節 制約要因と推進要因

- 一 制約要因
- 二 推進要因

第五節 現代へのインプリケーション

付録

- 付録1 「航空制度改善に関する意見」
- 付録2 「発動機製作班に関する仏国航空団終末報告（抜粋）」
- 付録3 陸軍航空・飛行学校における教育（一九一九年～一九二四年）
- 付録4 軍用飛行機及び発動機の種類（一九二〇年一月一日）
- 付録5 飛行機・発動機の名称（一九二二年一月七日）
- 付録6 「日本陸軍航空に関する仏国『ジョノール』少佐の意見」
- 付録7 航空兵科独立をめぐる井上少将とフォール大佐のやりとり
- 付録8 民間航空事業監督奨励に就て
- 付録9 「空軍組織問題に関する特別委員会の意見（概要）」

あとがき

索引

- 人名索引
- 事項索引